

小動物臨床家のためのエキノコックス症対応マニュアル

北海道小動物獣医師会 編
2014 改訂版



イラスト提供 北海道保健福祉部



写真提供 知床サイト



写真提供 知床サイト

2014年11月発行

目次

「小動物臨床家のためのエキノコックス症対応マニュアル2014」改訂版発刊に向けて.....	2
1.エキノコックスとは.....	3
2.エキノコックス症の検査および診断方法.....	4
3.検査結果の解釈とエキノコックス症の区分.....	5
4.担当獣医師の対応.....	6
5.駆虫剤投与計画.....	7
6.衛生管理並びに排泄物等の取扱い.....	8
7. 参考となるエキノコックスの処理方法.....	9
8. 関連機関相互の連絡・協議.....	10
9. 秘守義務並びに広報.....	10
10. エキノコックス症の日常の予防.....	10
11. 連絡会議.....	11
12. 日常の対応.....	11
13. 特に北海道に住んでいる小動物臨床家の心構え.....	11
付 録.....	12
エキノコックスからペットを守ることは、ヒトへの感染を防ぐこと.....	14
駆虫剤投与計画.....	16
2014 あとがき.....	29

1.エキノкокクスとは

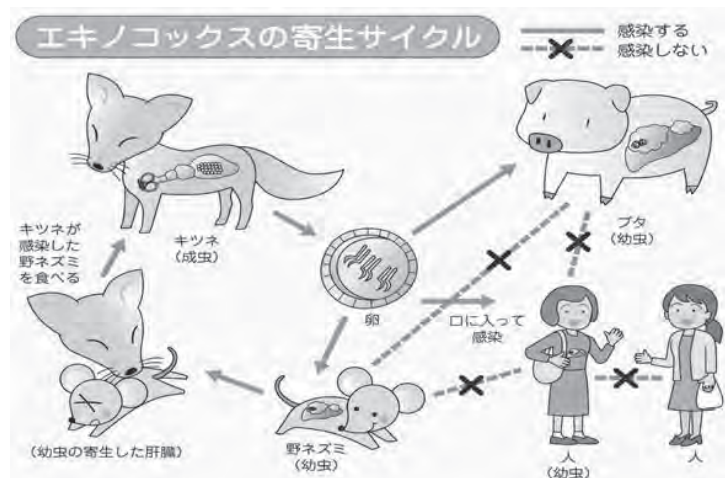
エキノкокクス (Echinococcus) はテニア科の条虫で、世界的には単包条虫(Echinococcus granulosus)と多包条虫(Echinococcus multilocularis)が問題となっている。北海道で問題となっている種は多包条虫であり、生活環は下図の通りである。キツネやイヌなどの終宿主動物と中間宿主動物の間で伝播し、終宿主動物の排泄物に含まれる虫卵によりヒトへも感染する。

エキノкокクスの発育段階には虫卵¹、幼虫および成虫の3つの段階がある。虫卵は感染した肉食獣の便とともに外界に放出され、周囲の地面や水や植物などを汚染する。虫卵は埃、食物や飲水などとともに動物に経口的に入ると、小腸で孵化し、肝臓や肺などに移行し、多包虫に発育する。「多包条虫」という用語は虫卵、幼虫および成虫のすべての発育段階に共通して用いるが、「多包虫」という用語は幼虫型に対してのみ用いる。

幼虫型(多包虫)に感染する宿主動物を中間宿主動物と呼ぶ。北海道で多包条虫の中間宿主動物は主にエゾヤチネズミを中心とした野ネズミ類である。多包虫に感染した野ネズミ類をイヌやキツネなどの肉食獣が捕まえて食べると感染し(新しい死体でも感染可能な場合がある)、寄生虫はイヌ²やキツネ³の小腸内で成虫となり、虫卵を作る。このように成虫型に感染する宿主動物を終宿主動物と呼ぶ。

ヒトへの感染は虫卵の経口摂取によるもので、幼虫が感染している中間宿主動物からヒトへの感染やヒトからヒトへは密接な接触があっても全く伝播しない。

一方、終宿主動物であるイヌやキツネに虫卵を食べさせても感染しない。キツネからイヌへは感染しない。あくまで、終宿主動物から中間宿主動物へ、中間宿主動物から終宿主動物へ伝播する。



北海道保健福祉部 動物由来感染症 エキノкокクス症かからないためのQ&Aより

¹ エキノкокクスの生活環。エキノкокクスの虫卵の直径は約30 μm。回虫卵(たとえば回虫卵は直径が約65-80 μm)の半分以下の大きさ。

² 道内のイヌの感染率 0.4%(野中ら 2009)

³ 道内のキタキツネの感染率 33.3%(2008年から2012年までの5年間の感染率、北海道保健福祉部調べ)